



カイツカイブキ [貝塚伊吹]

常緑／中高木／木本植物
／在来種・選抜種・園芸品種



科名 ヒノキ科ビャクシン属 (APGⅢ)

特記 生長：やや速い、雌雄異株、針葉樹

らせん状に旋回しながら伸びる枝は、炎を思わせる。生長力旺盛なため、こまめに切り戻して、樹形を維持するとよい。乾燥や潮風にも強く丈夫な樹。ビャクシン類の一部は、赤星病の中間宿主(しゅくしゅ)になるため、梨園の周辺では配植が制限されることがあるので注意。



Memo

宿主とは、寄生虫や菌類が寄生する生物。季節により宿主を変える場合、相手方を中間宿主と呼ぶ。

お手入れカレンダー	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	花 期	(鑑賞には向かない)											
	果 実	(鑑賞には向かない)											
	紅 葉												
	施 肥	(不要、あるいは春先に緩効性肥料を少々)											
	剪 定												

好みの環境				
日当り	陽	○	○	陰
土 壌	乾	○	○	湿
寒 さ	強	○		弱
暑 さ	強	○		弱
潮 風	強	○		弱

観賞ポイント	姿	花	葉	紅葉	黄葉	実	香
	○						

ポイント

コニファーの中では寒さ暑さに強く育てやすい。明るい緑の葉に人気があり、生垣や列植に利用される。生長力旺盛なため、適宜剪定する。根張りが弱いので生長期に植え付け、支柱の設置がおすすめ。

剪定

徒長枝を切り戻し、樹形を整えるとよい。大きくなり過ぎてからの剪定は、内部の枝が露出してしまふ。強剪定すると、ビャクシン本来の形質を持つ尖がった葉をつけやすい。先祖帰りとも表現される。

病虫害

冬期、葉に赤星病(カビの一種)の胞子がつき、春先に橙色のゼリー状になる。カイツカイブキの被害は軽度だが、ナシ、ボケ、カリン、カイドウなどの新葉へ移動し赤星病を発生させる。